

管内の概況

位置・気候

管内は北海道南西部に位置し、渡島半島と奥尻島などからなり、渡島半島の中央部を標高約1,000m級の渡島山系が縦断しています。

東は噴火湾と太平洋、西は日本海、南は津軽海峡と三方を海に面し、津軽海峡を挟み青森県と接しています。また、活火山である駒ヶ岳や恵山などがあります。

気候は、対馬暖流の影響を受けているため、寒暖の差が比較的少なく北海道内で最も温暖な気候です。夏は海洋から高温多湿な空気が流入し、大雨が降りやすくなっています。冬は日本海側の山間部で降雪量が多く、函館周辺は比較的少なくなっています。また日本海側の海岸部では冬に北西の季節風が強く、日本有数の強風地帯となっています。

歴史

北海道において最も早く和人が定住したのは、12世紀末に津軽・糠部（ぬかのべ）の人々が津軽海峡を渡り、現在の上ノ国町付近に移り住んだのが始まりとされています。

江戸時代になると北前船による関西との交易が一層盛んになり、江差、函館、松前などは物流・商業の中心として独自の文化を築き、繁栄しました。

その後、日米修好通商条約により函館は日本初の国際貿易港として開港し、領事館や外国人居留地が設置され、諸外国の文化の影響を受けて発展しました。

産業

《農業》

北海道農業発祥の地であり、豊かな自然や温暖な気候を活かし、稲作、野菜、花き、果樹、酪農、畜産など地域毎に特色のある農業が展開されています。

稲作は、道南で品種開発された「ふっくりんこ」や「ななつぼし」が中心に栽培され、長ねぎ、にら、かぶ、ほうれんそう、カーネーションは、全道でも有数の生産量となっています。

馬鈴しょは、メークインや男しゃくが生産され、「今金男しゃく」は地理的表示（GI）保護制度に登録されています。最近では、管内各地で醸造用のぶどうの栽培に取り組んでおり、日本で初めて海外のワイナリーも進出しぶどうの栽培を始めました。

《漁業》

古くからニシン漁で栄え、現在も恵まれた水産資源を基に日本海・津軽海峡のイカ釣り・マグロ漁、太平洋・噴火湾のホタテ・コンブの養殖、冬場のスケトウダラ漁など多種多様な漁業が営まれており、地域の基幹産業として重要な役割を果たしています。

近年、回遊魚の漁獲量は年々減少していますが、ブリの水揚げが急増しており、新たな食材としてその活用に取り組んでいます。

《観光》

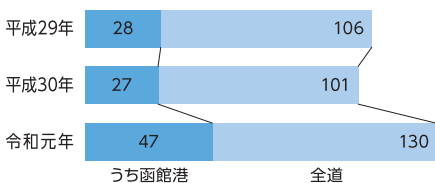
北海道の玄関口として古くから栄えた道南には、他地域とは異なる多くの歴史遺産や文化遺産が存在します。また、大沼国定公園や4つの道立自然公園を有するなど自然環境にも恵まれ、全国的にも人気の観光地となっており、国内外から多くの観光客が訪れます。

観光入込客数は、1,322万人（令和元年度北海道観光入込客数調査）で全道の約1割を占め、都市別観光宿泊者数では、函館市は札幌市に次いで道内第2位となっています。インバウンドは、台湾、中国を中心とした東アジアから多くの観光客が訪れています。

クルーズ船の入港数も増加しており、函館港は4年連続道内No.1。令和元年度は47隻が入港しました。

令和3年3月に函館新外環状道路 空港道路（赤川IC～函館空港IC）が開通し、高速道路と空港が直結することで広域周遊観光の活性化や新たな観光ルートの形成が期待されます。

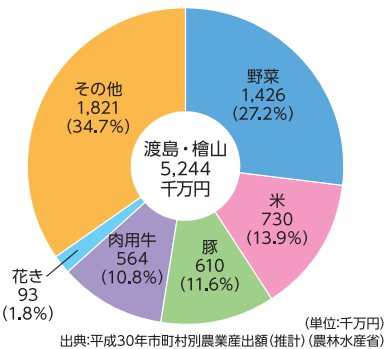
●函館港へのクルーズ船入港実績



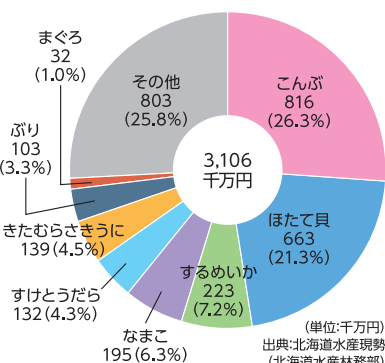
※令和2年度は入港実績なし

出典：北海道クルーズ振興協議会

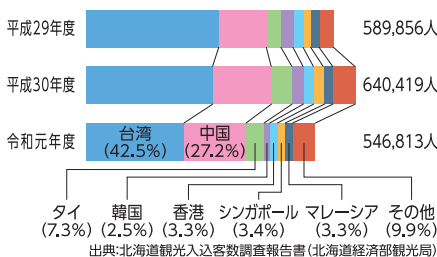
●渡島・檜山の農業産出額内訳



●渡島・檜山の漁業生産高魚種別構成



●管内の訪日外国人宿泊者数



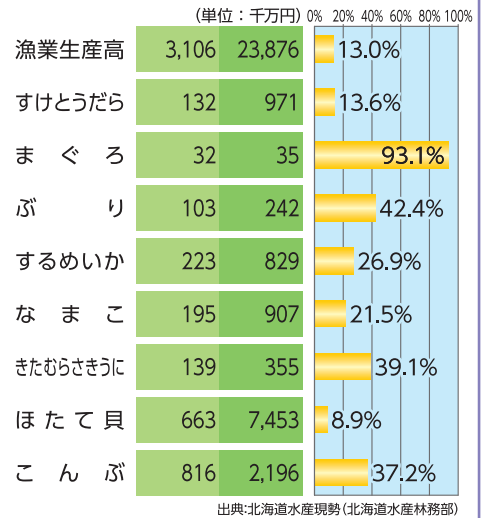
出典：北海道観光入込客数調査報告書（北海道経済部観光局）

北海道に占める管内のウェイト

●農業産出額(平成30年)



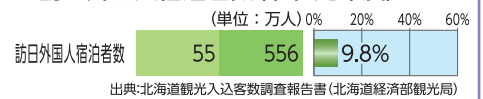
●漁業生産高(令和元年)



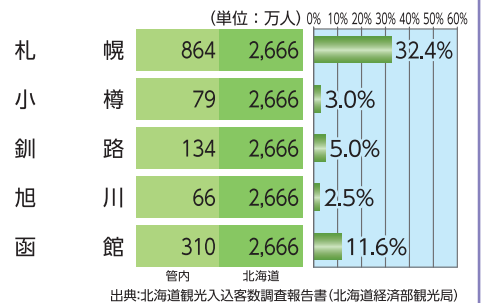
●観光入込客数(令和元年度)



●訪日外国人宿泊者数(令和元年度)

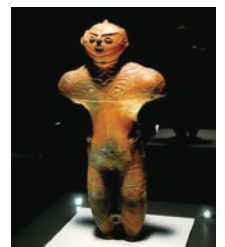


●都市別観光宿泊者数(令和元年度)



津軽海峡交流圏の交流促進

交流人口の拡大を図るために、北海道新幹線の開業を活かし、東北地方との連携を強化することが重要となっており、道南地方及び青森県で進められている津軽海峡交流圏や縄文文化等を通じた北海道・北東北地方の交流を軸として、様々な取組が進められています。



国宝 中空土偶 (函館市所蔵)

なかでも、北海道と北東北3県並びに関係自治体は、函館市の史跡大船遺跡と史跡垣ノ島遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の17の縄文遺跡について、2021年の世界文化遺産の正式登録を目指して連携・協力して活動しており、2020年2月にユネスコ世界文化遺産へ推薦され、9月にユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議(イコモス)による現地調査が実施されました。